

令和 6 年度射水市障がい者地域活動支援センター及び相談支援事業 実績報告

I あいネットいみず

(1) 地域活動支援センター

委託先	射水福祉会あいネットいみず	類型	地域活動支援センター I 型
標準利用人員	20 人/日	委託金額	12,000 千円

1 事業総括

令和6年度目標	
(基礎的事業) ・相談員の資質（面談技術の向上及び社会資源の活用・調整力）の向上 ・利用者ニーズに即した創作的活動、生産活動と地域支援プログラムメニューの工夫・充実 (I 型事業) ・ボランティア団体の活用の工夫と市民に対するボランティア参加の呼びかけの強化 ・民生児童委員、障がい者相談員や各種関係機関との連携の強化のための取り組みの実践	
事業内容	成果
基礎的事業 (1) 相談支援	・福祉サービス利用に関する相談、不安解消に関する相談、年金、生活保護に関する相談、成年後見に関する相談等を受けた。傾聴の姿勢で十分に話を聞き、的確なニーズ把握を行い、病院や包括支援センター等の関係機関と連携を図りながら対応した。1,014件の相談のうち、101件は福祉サービスの利用計画作成を行った。 ・障がい者本人及び家族の心の拠り所としての役割を担った。 ・相談内容別では、福祉サービスに関するものが678件と最も多く、全体の約6.7割を占めている。 ・障がい別では、知的障がい者からの相談が753件と最も多く、身体障がい者57件、精神障がい者62件となっている。
(2) 創作的活動及び生産活動の機会の提供	・地域活動支援センターでは、コロナの感染予防にも配慮しながら、利用者同士の交流の場づくりや雰囲気づくりに努めたが、依然として感染の不安から利用を控えている利用者も少なくない。そのため、利用者のニーズに応えられるものがなかなか開催できなかった。前半、就労を辞めた利用者が次の就労先を決めるまで毎日活動に参加してリズムをつくり次の就労に繋がった。年間延べ616名が創作的活動や生産活動、憩いの場に参加した。 ・創作的活動の主なものとしては、昼食づくり・お菓子づくりや季節の飾り、小物入れ、母の日プレゼント作りなどの工作等を実施し、延べ232名が参加した。生産活動は81名が参加した。また、余暇支援活動としては、近くのコミュニティセンターに依頼して月1回のランチとカラオケの行事を実施した。利用者は嬉しそうにランチやカラオケを堪能していた。また、生活講座として「歯磨き」について学んだ。
(3) 社会との交流促進	・当事者や当事者家族同士がテーマに沿った話を行うピア座談会を年3回開催した。一人で悩みを抱えず、和やかな雰囲気でお話し合う場を提供した。 ・地域のコミュニティセンターのクリスマスやハロウインのキッズ行事に参加して母と子どもと交流した。

I 型事業（機能強化事業）			
(1) 医療、福祉及び地域の社会基盤との連携強化及び調整	・年間112回のサービス調整会議を通し、医療・福祉並びに地域の関係機関等との連携を図った。 ・射水市子育て支援センター（キッズポートいみず）で行われた射水市地区相談会に相談支援スタッフとして出席し、障がい児の進路についての指導、助言を行った。令和6年度は9回参加した。 ・9月14日に相談支援従事者研修として、いみず苑入所課長・浦山順生氏を講師に「入所施設の現状と課題」についてと施設見学を行った。 ・9月19日に民生委員、児童委員障がい者相談員合同研修会に参加した。 ・11月24日に福祉セミナーとして、青山学院大学教育人間科学部・古荘純一教授を講師に「軽度知的障害と境界知能」の演題により講演会を開催した。 ・12月6日に保護者支援講座しえあタイムに参加した。		
(2) 地域住民ボランティアの育成	・9月29日に射水市社会体育指導員・蒲原達也氏を招き「スポーツ大会」を行った。障害のある方や地域の親子が参加し、地域の方々にもボランティアとして参加いただいた。 ・12月21日に「しめ縄づくり」を行い、地域の方々にボランティアとして参加いただいた。		
(3) 障がいに対する理解の促進を図るための普及啓発活動	・昨年に引き続き大学教授を講師に迎え、手話通訳も依頼して、射水市立新湊中学校の2年生を対象に「違いを豊かにするための地域共生社会とは」を演題に教育と福祉の講演会を行った。今年も中学生が手話を実際に学習し、障がいに対する理解の促進と普及を図った。 ・広報誌やホームページを活用して相談窓口の普及を図った。 ・障がい者週間に、地域の社会福祉協議会に協力していただき、ポスター掲示や菓子販売を行った。また市役所ロビーでも事業所紹介や作品展示を行った。 ・交流を図るとともに、普及啓発を目的に実習生を受け入れた。(延べ 実習生22名。)		
(4) 地域活動支援センター間の調整	・市内4か所の地域活動支援センター間の連絡調整と、毎月第2木曜日に開催されるセンター連絡会の運営を行った。(年12回)		
職員配置について			
区 分	氏 名	資 格	
管理者	稲垣 宏		
センター長・相談支援員	明 隆之		
相談支援専門員	田尻 里子	社会福祉士、介護福祉士	
相談支援専門員	原田 早季	社会福祉士、精神保健福祉士	
相談支援専門員	横田 萌	社会福祉士、介護福祉士	
相談員	市井 沙和	社会福祉士	
生活支援員	木下 千春		

2 相談支援の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
あいネットいみず	同左
受付窓口	8 : 3 0 ~ 1 7 : 1 5
電 話	2 4 時間 (1 7 : 1 5 ~ 翌 8 : 3 0 は留守番電話対応)
ファックス	2 4 時間
メール	2 4 時間

(2) 相談件数について (令和 6 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 3 1 日)

① 相談方法別件数 (延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
555	101	28	219

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
14	75	1	21	1, 014

② 相談内容別件数 (延べ件数) (相談内容を重複計上)

福祉サービス	障がい理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
678	14	4	13	76	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
2	21	22	7	0	0

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
30	0	5	7	18	147	1, 044

③ 相談受付件数 (延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
57	0	753	62	37	0

その他 (重複無)	身体 + 知的	身体 + 精神	知的 + 精神	身体 + 知的 + 精神	その他 (重複あり)	合計
22	57	8	4	0	14	1, 014

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	38	27	23	7	10	6	14	11	20	10	35	31	232
生産活動	1	0	3	4	21	8	8	7	7	7	7	8	81
社会との交流促進	33	27	33	23	26	22	29	12	31	9	30	28	303
合計	72	54	59	34	57	36	51	30	58	26	72	67	616

4 令和6年度の地域活動センターの運営等について（目標の達成状況、課題など自由記述）

- ・ 福祉・保健・医療・教育・労働・司法等の関係機関や地域住民との連携のあり方について
- ・ 高齢家族などの利用者以外の支援や家庭力の弱い利用者への対応について
- ・ 利用者の高齢化に伴う介護と障がいの連携体制について
- ・ 民生児童委員や障がい者相談員、地域住民ボランティアとの連携強化及び拠点としての役割について
- ・ 感染症への不安や利用者の高齢化、病状の悪化により地域活動への参加機会の減少
- ・ 居場所としての地域活動支援センター活動の見直しと機能拡充の工夫
- ・ 幼小中高などにおけるサービス利用の状況や課題を関係機関がどのようにして共有し、理解、連携していけるか

(2) 相談支援

委託先	射水福祉会 あいネットいみず	委託金額	6, 0 0 0 千円
-----	----------------	------	-------------

1 障がい者相談支援事業に関する事

事業内容	実績
(1) 福祉サービスの利用援助に関する事	・福祉サービスの利用がない、引きこもり、孤立、貧困、8050家庭等の支援が必要な家庭の訪問や通院同行等を行った。 ・障害者手帳取得や障害年金、成年後見制度の利用が必要な家庭には支援を行いながら、本人のニーズを確認し、様々な支援機関に繋いだ。
(2) 社会資源を活用するための支援に関する事 (3) 社会生活力を高めるための支援に関する事	・学校、病院、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などと連携し、利用者、保護者、事業所と相談支援専門員により、障がいの理解、利用者の就業面や生活面での課題解決に向けたの面接や会議等を年間数回実施した。
(4) ピアカウンセリングに関する事	・料理教室や工作教室などの創作活動の後にも障がい者同士が職場や生活のことについて気軽に話し合う機会を確保した。
(5) 権利擁護のために必要な援助に関する事	・成年後見に関して、法務事務所などに連絡をとりながら保護者との話し合いをスムーズに進めた。今年度は、男性8件女性1件の支援(1件につき1回～3回の支援)を行った。成年後見申し立ての流れの説明から情報の提供や確認、助言を行いながら、司法書士を通して成年後見の申し立てを行った。親族を後見人としてが高齢で後々変更も考えられる者もいた。また、選挙に伴う投票に関する支援や障害基礎年金の申請手続きの支援、療育手帳の申請の支援も行った。
(6) 専門機関の紹介に関する事	・相談内容に応じて、病院、就業・生活支援センター、後見センター、法律事務所、すてっぷ、障害者職業センター等を紹介し、連絡調整を行い対応した。

2 相談支援機能強化事業に関する事

事業内容	実績
(1) 専門的な知識を必要とする困難事例等への支援に関する事	・射水市障がい者総合支援協議会相談支援部会(年12回)でストレングスアセスメント票に基づく事例検討をグループワースーパービジョンで行った。 ・部会の活動を通して、保健・福祉・医療・教育等、関係機関との連携作りに努めた。 ・県圏域アドバイザー派遣事業における講演や主任相談支援専門員との会合を行った。
(2) 射水市障がい者総合支援協議会の開催及び運営並びに構成員に対する専門的な指導、助言等に関する事	・射水市障がい者総合支援協議会において、各相談支援事業及び障がい者地域活動支援センターの活動の現状、課題等について検討を行った。 ・相談支援部会を毎月第4木曜日に定例会として開催した。 ・研修会として、地域生活定着支援センターの主任相談支援員の講義、視察研修では福祉バスを利用して、震災の支援にあたった氷見市社協の事業所見学と震災時の状況や個別避難計画の作成などに係る講義を受けた。 ・前年度からの試みである当事者の生の声を聞く会では、視覚障がいがある方からの話を聞く機会を得られた。 ・12月、社会資源マップについて、講義やグループワークによる勉強会を行った。 ・1月、障がい・高齢分野合同研修会で、重層的支援の事例紹介を行った。 ・事例検討は3回行った。2月には事例検討を通して浮かび上がった地域課題の解決に向けたグループワークを行った。ここでまとめた課題をもとに各専門部会の部長に出席いただき、各部会の課題の共有と相談支援部会としての地域課題の取りまとめを行った。 ・今年度は地域連携懇談会との視察研修に民生児童委員にも参加をいただいた。また、地域連携懇談会と社会資源マップでは地域包括支援センターにご協力をいただいた。

(2) 射水市障がい者総合支援協議会の開催及び運営並びに構成員に対する専門的な指導、助言等に関する事	・就労支援部会では、事務局会議3回とワーキング会議を4回行った。今年度初の取組として、就労継続支援事業所にアンケート調査を実施した。そのアンケート調査を基に、11月7日に職員研修会として、職場職員による意見交換会を行った。当日は小グループに分かれ、様々な現場の話題が出て、お互いが顔見知りになる機会となった。また、2月20日に富山県障害者職業センターにより、ジョブコーチ支援に関する講義を全体研修会として行った。ジョブコーチを活用した事例を数件紹介していただき、ジョブコーチの実際について深く知る機会となった。来年度も、福祉事業所のみならず、企業公的機関等多くの職種が関わり、協働しつつ、様々な視点から議論を行っていくこととしている。 8月29日にワーキンググループを開催し、「入所（入居）している障がい者への支援を取り巻く現状や課題」について意見交換を行った。その中から出てきた意見をもとに第1回サービス事業者部会を1月30日に開催した。テーマは「地域生活拠点の現状と課題」、「障害者を取り巻く交通事情」、「災害時の安否確認において事業所ができること」とした。第2回は3月27日に開催した。「ハラスメント研修」として富山県人権擁護委員の小林福治氏による講演のほか、「行動援護と移動支援の不足」というテーマで現状と課題について意見交換を行った。そして令和7年度射水市障がい者総合支援協議会での提言・報告を取りまとめた。 ・子ども部会では、医療的ケア児、障がい児の不登校をテーマに、6月20日、10月2日、2月26日の3回部会会議を開催した。役割分担などの事前打合せは10回行った。富山病院地域医療連携室・中神麻世氏より「富山病院における児童の医療・福祉・教育について」の講義と富山病院、ふるさと支援学校の施設見学。CCCT小児がんコト親の会代表竹内ますみ氏、医療的ケア児のママ大谷梨江氏、ふらっと宮袋氏より「医療的ケア児の家族として、地域の皆さんに望むこと」の座談会。くるみ理事長・岡本久子氏、りすの森malu・吉田壮哉氏より「居場所支援について」と山本部会長より「医療的ケア児の個別災害安心プランについての報告」を拝聴した。来年度は、医療的ケア児についてワーキンググループを発足し、医療的ケア児と障害児の不登校をテーマに検討予定。
(3) 市内の相談支援体制の整備状況、ニーズ等を勘案した事業実施計画の作成に関する事	・具体的な計画作りを進めるために、個別のケースを通して地域課題の整理、分析を行った。

課題

- ・地域生活支援拠点等についての緊急時の支援対象者への対応方法や事前登録について
- ・障がい者の自立支援に係る地域の課題の抽出と共有、社会資源の開発
- ・相談員の資質向上を図るための研修会

II ふらっと

(1) 地域活動支援センター

委託先	特定非営利活動法人ふらっと	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和6年度 目標	
・地域生活支援拠点事業・重層的支援体制整備事業の推進に協力し、地域社会資源の一つとして、障がいのある方や家族、一般市民が安心して利用・交流ができる、地域に浸透したセンターづくりを目指す。 ・地域で行う防災訓練や地域行事への参加のみならず、地域の方々と企画、運営に参加をし、顔の見える関係づくりを行う。 ・障がい児者、ひきこもりの方や不登校児、またその家族に対しての居場所や活動場所の提供を、地域の関係機関や団体等と情報交換し協働して支援することで、未来への人材育成、人材創出に繋げ、地域の体制強化の一助となるセンターを目指す。 ・一般の情報サイト運営会社やアーティストと協力し、ZOOM等も活用しながらハイブリッドで楽しみ、生活意欲が高まる余暇支援を行う。 ・テレワークや働き方改革、離職等によって起こりうる、DVや虐待、プライバシーの侵害、コロナうつ、コロナ離婚など、家族の状態を把握する。家族の孤立感や障がいのある子の子育て、介護に加えて親の介護のダブルケアや家族の世話が增多することによる精神的負担感を開放できるよう支援する。 ・兄弟の精神疾患や不登校、引きこもり等、ヤングケアラーに関する取り組み。 ・本人及び家族が「働く」ことについての啓発と支援。 ・強度行動障害、医ケア、発達障がいなども含め、障がいのあるなしに関わらず、子どもの発達には幼少期からの父親の関わりも大切。パパのサークルを支援していく。また、育児や介護の中心となっているママ、パパの”元気”を引き出すため、交流したり、気軽に相談し合える場を提供する。 ・一般市民と共に学ぶ取り組みの実施。虐待防止を中心とした地域生活を推進するチームづくりを目指す。	

事業内容	成果
基礎的事業 (1) 相談支援	・相談件数は2,361件。（障がい者60％、障がい児40％）（障害種別：知的30％、身体・重心・医ケア及び重複45％、発達・精神・高次脳15％、その他10％） ・社会活動が活発となり、4年間増え続けていた相談件数については少し落ち着いてきたが、コロナ禍の影響や能登沖地震後の不安によって、元の生活リズムに戻れない障がい者やその家族からの相談は続いている。 ・土、日、祝日のサービス利用（日中一時、移動支援、行動支援）への希望が多いが、事業所数が少なくニーズに応えきれていない。 ・重症心身障害の方に対して地域生活支援拠点整備事業における緊急時の宿泊を調整した。 ・親が亡くなった後の地域生活の継続に関する相談があり支援を継続している。 ・能登半島沖地震が大きなきっかけとなり、医療的ケア児等（重症心身障がい児者含む）に対して、避難行動要支援者名簿への登録について情報提供や登録推進を行っている。 ・医療的ケア児等コーディネーター（相談支援専門員）が中心となり、市社会福祉課職員やご家族と一緒に緊急時安心ノートを1件作成した。 ・障がい児や、その兄弟児の不登校に関する相談が増えている。射水市総合支援協議会子ども部会で築いてきた教育・医療・福祉等の専門機関との連携により、早期の環境調整と継続的な支援ができてきている。 ・射水市社会福祉協議会が開催する引きこもり相談会に相談員を派遣している。地域活動支援センター等の居場所についても情報提供をすることで、不定期ではあるが引きこもりの方やご家族が、センターで過ごされることがある。 ・2名の主任相談支援専門員が、射水市総合支援協議会相談支援部会の運営に携わったり、自他事業所の相談支援専門員からの相談に対して助言やスーパーヴァイズを行うことで、市内の相談支援専門員の人材育成に務めている。 ・他相談支援事業所から外国人ルーツの障害福祉サービス利用の困難性について相談を受けることが何件あった。

(2) 創作的活動及び生産活動の提供	・創作活動は子育て支援中の母親や乳幼児達と一緒に、季節に合った折り紙での製作や、手形や足形でハロウィンやトナカイ、花を表現し楽しんだ。また、アーティストと一緒にアロマキャンドル作りやフラワーアレンジメント作り等も経験した。 ・射水市まちづくり協議会と共催して、令和3年から開催している「ふらっと作品展」を令和6年度も4月に小杉展示館にて開催した。落書きや身近な材料によってできあがる造形作品などの展示の他、日々の活動の中で取り組んでいる手芸作品や、利用者が描いたイラストをプリントしたバッグやTシャツの販売も行った。 ・地域の高齢ボランティアの方と一緒に、夏野菜やサツマイモの植え付けから収穫までの作業を行なって、ふらっと収穫祭を行なっている。また、畑で収穫したラベンダーやミントなどのハーブを地域の方に配布したり、障がい者施設で生産した花苗を購入しプランターで育てている。
--------------------	---

(3) 社会との交流促進	・今年度も感染症対策に留意しながら、積極的にボランティアを受け入れ、県内外からの見学者の受け入れについても、主に前庭にある「みどりの居処」を活用して実施した。また、看護学生や福祉系の学生と、オンラインを通じて交流した。 ・毎月嘱託医から直接お話を聴く「健康講座」を開催している。 ・障がいのある方の虐待防止や、権利擁護・意思決定支援を推進するために、「チームカラフルs」を結成し、定期的に地域住民や外部委員との話し合いの場を設けている。 ・海王丸パークで開催された「ワンフェス」(ライブイベント)に、地域生活支援事業の障害者(児)移動支援事業を活用してグループで出かけ盛り上がった。 ・救急薬品プラザ広場で行なわれた「下条川みこし祭り」のパレードに「多様性」をテーマとしたレインボーパレードとして参加した。赤ちゃんから高齢者まで、障がいのある人もない人も、LGBTQ+の人も、思い思いの賑やかな衣装とダンスで参加した。夜にはふらっとでのビアガーデンを開催し、飲食やパフォーマーによるファイヤーショーを楽しんだ。障がい児者のお父さんたちが、飲料販売のボランティアを通じて話を弾ませる機会となった。 ・9月には富山環水公園で行われた小児がんの理解啓発キャンドルイベント「灯り」や、歌の森公園で開催された射水市多文化交流イベント「リンクパーク」を共催としてキャンドル点灯のボランティアや、移動支援を活用してイベントに参加した。 ・「射水市障がい者理解促進研修・啓発事業」も活用して、地元自治会、地域振興会、民生委員・児童委員、ボランティア協議会、ささえ合い会議や、地域包括支援センター、地元企業や学生ボランティアの多くの方々からの協力で、参加者総数230名の交流事業「クリスマスもちつき大会」を開催することができた。感染防止対策を徹底しながら、杵臼による餅つき、豚汁の提供やバルーン、ジャグリングショー等を実施し、利用者やご家族、ボランティアの皆さんの交流はもとより、一般の方々への社会啓発とした。 ・近所の教会の皆さんの訪問でXmasソングのプレゼントが届き、一緒に歌ったりプレゼント交換をしたりと交流を深めた。
--------------	---

職員配置について		
区 分	氏 名	資 格
管理者・主任相談支援専門員	宮袋 季美	
センター長・主任相談支援専門員	山本 真紀子	社会福祉士・保育士
相談支援専門員	佐藤 格	社会福祉士
相談支援専門員	熊田 由依	介護福祉士・保育士
相談支援専門員	池田 美幸	社会福祉士・保育士
支援員	増川 元英	

2 相談支援の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
ふらっと	同左
受付窓口 9:00～18:00 電 話 24時間 (18:00～翌9:00は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2) 相談件数について (令和6年4月1日～令和7年3月31日)

①相談方法別件数 (延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
103	544	13	1,312

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
89	40	38	222	2,361

②相談受付件数 (延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
133	217	716	51	286	11

その他 (重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他 (重複あり)	合計
177	672	41	0	0	57	2,361

③相談内容別件数 (延べ件数) (相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
1,264	237	22	520	215	1

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
70	23	11	10	7	17

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
19	0	15	3	8	252	2,694

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績 (延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	35	79	25	50	70	72	78	50	68	45	35	38	645
生産活動	40	27	33	31	29	50	30	31	37	30	31	58	427
社会との交流促進	66	117	74	31	248	40	29	32	244	17	16	40	954
合計	141	223	132	112	347	162	137	113	349	92	82	136	2,026

4 令和6年度の地域活動支援センターの運営等について（目標の達成状況、課題などを自由記述）

・令和6年度も地域活動センターが担う「居場所」としての役割を継続した。学校に登校できない日に過ごす児童や、訪問看護師と一緒に過ごされる方、気が向いた時にお茶を飲みに来られる方、日中は引きこもっていても夕方には掃除を自分の役割としておられる方など複数名が居場所として利用されている。

・障がい児者やその家族が参加できるイベントなどを地域の皆さんと協働しながら開催することで、共に楽しみ、知り合える場を創っている。

・射水市社会福祉協議会が実施している「ひきこもり相談会」に相談員を派遣することで、地域活動支援センターを居場所として紹介できる機会が増えた。

・射水市内の障がい児者福祉サービス事業所、社会福祉協議会、学識者等、有志とともに「ベタライ（射水市の障がい福祉を考える会）」での勉強会を継続し、障がい児者やその家族が住みやすい地域づくりを目指しながら組織の枠を超えて連携を深めている。

・能登半島沖地震が契機となり、医療的ケアのある方や重症心身障害児者、強度行動障害の方に対しての緊急時の避難行動について、ご家族とともに考える機会が増えた。避難行動要支援者名簿への登録の推進は行っているが、個々の避難行動計画や地域の避難訓練への参加などを進めていく必要がある。

・災害対策を見据えての外出支援を行うことも、緊急時の避難行動の練習となる。

・外国人ルーツの障害児のサービス利用や、居場所として親子でセンターを利用している方もいるので、相互理解のためにも言語や文化の違いについての相談員のスキルアップの機会の必要性を感じる。

・土、日、祝に利用できる障がい福祉サービスや、居場所、参加できる活動など、ニーズはあるが応えきれない。

・移動支援や行動援護、同行援護等の外出支援のサービス事業所数が限られていて、新規の利用が難しくなっている。

5 自由記載欄

・地域生活支援拠点事業の周知不足。ニーズの現況に応じて利用できるよう、内容についての見直し※土曜、日曜、祝日等、日中サービス事業所が利用できない時や、宿泊までは必要のない事業所の利用時間外の緊急的な利用に対しても、柔軟に受け入れができる事業所を増やすなどの、体制整備が必要ではないか。

・障がい者や障がい児、その家族が活動したり話し合ったりする場を創り、当事者からの意見を総合支援協議会に届けていく仕組みづくりが必要。

・発達障がい児に関しての早期診断、早期療育により、障がい児の福祉サービス利用が増えている。家族や相談支援専門員が連携して子ども達の発達に伴走するためにも、幼児期から児童期、青年期までのライフステージを見据えて支援する、中核的な児童発達支援センターが必要。

III つどい

(1) 地域活動支援センター

委託先	特定非営利活動法人ワークホーム悠々	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和6年度目標		
・主体的に参加できるピア活動の実施、家族への支援・交流の機会の充実 ・関係機関、地域との連携 ・障害に対する理解を促進するための活動を行う		
事業内容	成果	
基礎的事業 (1) 相談支援	・相談件数は1,610件（前年度1,498件）。うち、一般相談は延べ162名（実人数54名）、延べ408件あり（全体の相談の約25％）。 ・相談者内訳は精神障がい者が1,260件（78％）と最も多い。 ・電話相談が最も多く、不調時などには1日に5.6回電話をかけてくる方であったり、1件の相談に時間を要するものも多い。 ・相談内容は不安の解消が多く、体調のこと、仕事のこと、将来のことなど多岐にわたる。また、独居の方の相談が目立つ。 ・新規相談は16件、再相談は5件あり。本人や家族からの相談が一番多く、病院からは退院後の日中活動の場として利用を希望されることが多い。統合失調症の方は少なく、気分障害、軽度知的障害、自閉症スペクトラム障害、適応障害、強迫神経症などの方など様々だった。 ・親の病気や介護、死去など生活環境の変化や将来の不安などの相談も増え、地域包括支援センターとのやりとりも増えた。また、成年後見制度の利用や終活センターの利用をする方もいた。 ・自分に合う住まいの場がなかなか見つからないケースが多い。 ・コミバスのルート変更やダイヤ改正、のるーとのエリア拡大で便利に使いこなしている方もいれば、不便になり利用が遠のいた方もいた。 ・計画相談で関わっていた方が福祉サービスの利用を終了されても、引き続き相談に対応する場合が多い。	
(2) 創作的活動及び生産活動の機会の提供	・年度末時点で43名の登録あり。 ・見学は5名、体験利用は1名、新規利用登録者は2名。 ・開所日239日、年間延べ598名の利用あり（前年度626名）。 ・毎月ミーティングを実施し、希望を取り入れながらプログラムに反映し、活動した。その日の体調や気分、天気での利用を判断する方、プログラムを選んで利用する方、中には他利用者と同一空間にいられず、1対1での対応が必要な方もいる。全体的に一人当たりの利用頻度が減っている傾向にある。 ・日頃、身体を動かす機会が少ないことから身体を動かすプログラム（ストレッチ、テーブル卓球など）が好評だった。 ・外部講師を招いて絵手紙教室や太極拳教室、市の出前講座を行った。 ・火、木曜の午後はワークホーム悠々（就労継続支援B型）へ移動してステップアップを目指す方の作業時間帯と位置付けており、実人数4名、延べ125回の参加があった。体調に波があり、作業を休む場合も多いため、就労系サービスの利用などには結びついていない。 ・家族交流会を行ったが参加者は少なく、個別での対応となることが多かった。	
(3) 社会との交流促進	・定期的に周辺地域の街頭清掃（8回/延べ20名）を実施した。 ・近隣施設の利用を積極的行ったり、市内のお店にも外出レクとして出かけた。 ・ボランティアや地域家族会いみず野会員などに行事案内をし、行事参加を通して交流を図った。町内にも案内は出したが、参加には至らなかった。 ・資源回収は、町内の高齢化が進んでいることもあってニーズは高く、一緒に回収作業を行った。 ・近隣の高齢者宅の除雪作業を行った。	
職員配置について		
区 分	氏 名	資 格
センター長	戸田みどり	精神保健福祉士・相談支援専門員
指導員	中島 智子	介護福祉士
指導員	黒田 祐子	

2 相談支援の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
地域活動支援センターつどい	同左
受付窓口	9:00～16:00
電 話	24時間（受付時間以外は留守番電話対応）
ファックス	24時間
メール	24時間

(2) 相談件数について（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

①相談方法別件数（延べ件数）

訪問	来所	同行	電話
147	148	6	715

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
77	37	480	0	1,610

②相談受付件数（延べ人数）

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
32	0	169	1260	13	0

その他（重複無）	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他（重複あり）	合計
1	0	52	67	0	16	1,610

③相談内容別件数（延べ件数）（相談内容を重複計上）

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
469	237	0	69	688	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
0	50	4	10	2	2

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
52	0	0	0	16	11	1,610

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績（延べ人数） ※市外含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	28	35	41	35	25	16	37	45	27	21	25	38	373
生産活動	13	15	12	12	7	7	9	9	9	14	9	9	125
社会との交流促進	18	7	8	3	2	18	11	6	9	12	4	2	100
合計	59	57	61	50	34	41	57	60	45	47	38	49	598

4 令和6年度の地域活動支援センターの運営等について（目標の達成状況、課題などを自由記述）

・自分を表現する力や自分自身を認めて少しでも自信が持てるような関わりや活動をしたい。
 ・ピア活動の継続（橋渡しの役割）、より主体的な活動をしたい。
 ・障がい特性や加齢に伴い外出の機会が減っているため、活動を工夫したい。
 ・家族の息抜き、家族同士の交流・情報交換などの機会の提供を増やしたい。
 ・独居により社会との交流が少ない方よりどころになっている面もあるため、自分の話を聴いてほしいという思いの強い利用者や、病状的に配慮が必要な利用者も多いため、一対一の支援が必要な場合も多い。職員補充はできたものの、十分ではない状況は続いている。
 ・地域に貢献できる活動を継続することで、障がいへの理解を深めてもらう機会にしたい。

Ⅳ むげん

(1) 地域活動支援センター

委託先	特定非営利活動法人むげん	類型	地域活動支援センター（基礎的事業のみ）
標準利用人員	15人／日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和6年度 目標		
地域活動支援事業として、今年度も利用される方々のニーズに寄り添った活動を展開し、利用者の方の自立に向け一人一人の強みを活かし、お互いを助け合うことが出来るよう、生産活動や創作活動を通して持てる能力の維持・向上を図りたい。また昨年度より放課後や長期休暇の子供たちの居場所として現在空きスペースとなっている部屋を開放し、「とやまっ子さんさん広場」を開設。今年度も地域や学生のボランティアとともに子供たちと交流し、地域全体で子供たちの成長の見守りを行いたい。地域の方にも多くの方にむげんに足を運んでもらい、むげんの利用者との交流の場として「夏祭り」「良い音楽を聴く会」「クリスマス感謝祭」などを実施し、福祉のあるまちづくりの実現を行っていききたい。		
事業内容	成果	
基礎的事業 (1) 相談支援	市や社会福祉協議会、地域包括支援センターや地域の民生委員などとの連携により、障害者やひきこもり、８０５０問題といった様々な地域課題に窓口での相談や計画相談によって随時対応し、適宜・適切に対応した。	
(2) 創作的活動及び生産活動の機会の提供	従来行っている創作活動・生産活動を充実させ、地域や市の作品展に展示する作品の制作などに取り組んだ。また、むげんの看板商品となっている「チューリップ」の生産、「ありがとう」の気持ちを込めたメッセージカードの作成や販売を通して仲間との協働をする体験の機会を提供した昨年度より各種「ハーブ」の育成とそれをブレンドした「ハーブティ」をサロン等で、市民に楽しんで頂く事業を始めようこんで頂いている。また、単身生活者を中心とした調理実習を定期開催し、バランスの良い食生活の支援を行った。	
(3) 社会との交流促進	今後も顔が見える福祉のある街づくりにスポットを当て、当センターでは近隣自治会長などと協議を重ね、「夏祭り」「良い音楽を聴く会」「クリスマス感謝祭」といった地域の皆様と協働して開催した交流事業や、地域の小学生を対象とした「とやまっ子さんさん広場」を開催。夏休みなどの長期休暇や放課後など、子育てに不安を感じているご家庭の支援と合わせ、地域住民の皆さんと「障がい者や高齢者そして児童」らの「住みよい安心安全な居場所づくり」に挑戦した。	
職員配置について		
区 分	氏 名	資 格
管理者	門 田 晋	
センター長・相談支援員	福 島 千 尋	精神保健福祉士・主任相談支援専門員
相談支援員	門 田 晋	精神保健福祉士・主任相談支援専門員
相談支援員	煤 溪 光 香	介護福祉士・相談支援専門員
相談支援員	門 田 悦 子	精神保健福祉士

2 相談支援の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
むげん	同左
受付窓口 8:30～17:15 電 話 24時間(17:15～翌8:30は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2) 相談件数について(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
253	290	19	428

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
37	4	18	4	1,053

②相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
65	0	197	582	82	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
11	10	68	38	0	0	1,053

③相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
688	12	8	570	367	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
11	246	28	11	21	21

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
75	3	81	3	6	15	2,166

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	16	9	8	13	27	10	18	13	52	34	44	54	298
生産活動	111	123	125	79	57	97	107	75	35	19	16	52	896
社会との交流促進	60	46	67	64	52	76	90	102	78	77	27	79	818
合計	187	178	200	156	136	183	215	190	165	130	87	185	2,012

4 令和6年度の地域活動支援センターの運営等について(目標の達成状況、課題などを自由記述)

・大雪の被害などもあり2月の利用が落ち込む時期はあったが、その他の月に関しては昨年同様多くの方にご利用頂いたように感じています。

・事業内容は令和5年度と大きく変わらないものの、一つ一つの中身の充実を図ることができたのではないかと感じています。

・障がいやひきこもりだけではなく、貧困、家族関係、ジェンダーに関する相談等と多種多様な課題を抱えておられる方からの相談も多く、個々の課題に応じた支援が求められていることを実感しました。

・日々の業務で残念に感じたことは、支援センターをよく利用されていた3名の障がい者が病気で急逝されたことが続き、利用者の健康管理支援の必要性を感じていることから、障がいだけではなく、内科疾患などの早期発見や、定期的に健康診断を受けていくための声掛けなど、健康意識を高めていかなければならないと改めて痛感する1年でした。

・令和7年度は一人一人の健康面にも一緒に考えあうプログラムにも検討していきたいと思っています。